



列長の蛇にみどつかみ 催開まつり鮭おつち

12月3日、大槌町魚市場を会場に、「おおつち鮭まつり」が盛大に行われ、町内外から約5000人が訪れました。このイベントは、新巻鮭の祖、大槌孫八郎政貞の没後400年にあたり、改めてふるさと大槌の鮭にまつわる歴史、文化などを振り返る機会にするともに、大槌町のシンボルである「鮭」と当町発祥の特産品「新巻鮭」など食の魅力や町内外に発信し、観光振興や地域活性化につなげることを目的として開催されました。

メインイベントである「鮭のつかみどり」は、漁の状況により中止の可能性もありましたが、無事に開催され、集まったつかみどりファンが長蛇の列を作りました。参加者は、元氣よく泳ぐ鮭に四苦八苦し、水しぶきに濡れながらも笑顔を見せていました。関東から訪れつかみどりに参加した男性は、「こんな体験はめったにできません。思ったより力強く、ダイナミックに動くので、全身を使ってつかまえました。また参加してみたいです」と感想を語ってくれました。

その他、会場では、新巻鮭作り体験、セリ体験などの体験コーナーや、鮭汁、鮭節ラーメンなどが味わえる飲食ブース、鮭やいくら、わかめなどの特産品が買える販売ブースなどが用意され、イベント終了まで多くの人でにぎわいました。



辞頭の年

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、平成三十年の新春を穏やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

東日本大震災津波から七度目の新年に際し、改めて犠牲となられた皆様にご心より哀悼の意を表します。また、今もなお仮設住宅での生活を余儀なくされております町民の皆様へ、改めて心からお見舞い申し上げます。

昨年は、土地区画整理事業等の進捗に伴い、災害公営住宅の整備や住宅再建など恒久住宅への移行が本格化してまいりました。また、中心市街地においても商店の再建が進み、特に、震災後初めて開催された末広町商店街の「よ市」は、町内外から多くの出店をいただき大盛況となり、にぎわいの再生に向けた大きな一歩となりました。

町方地区では、本年春の開館を目指し、(仮称)御社地エリア復興拠点施設「おしゃっち」

の建設を進めているほか、平成三十一年三月に運行開始予定の三陸鉄道の大槌駅の再建に取り組んでまいります。また、三枚堂地区と大ヶ口地区を直結する(仮称)三枚堂大ヶ口トンネルについては本年五月の貫通を目指して、災害に強い循環型道路として整備を進めてまいります。被災者の最後の一人まで責任を持って寄り添い、復興を加速させ、引き続き、新しいまちづくりに全力で取り組んでまいります。

本年は、平成二十三年度から平成三十年度までの「大槌町東日本大震災津波復興計画」に継ぎ、十年後を見据えた「第九次大槌町総合計画」を策定する年となります。復興計画の達成状況を踏まえ、大槌町の魅力ある暮らし

と風景の再生を目指し、町民の皆様との協働により、総合計画の策定に取り組んでまいります。これまで、大槌町の復興は、日本国内のみならず世界中の様々な方面からのご支援をいただきながら、町民の皆様、町議会、国や県、関係機関・団体との協力・連携により進んでまいりました。皆様への感謝を忘れることなく、今後とも尽力いたしますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

町民の皆様にとりまして、本年が幸多き年となりますようご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

平成三十年元旦

大槌町長

平野公三

